

## 2016 年度 特定非営利活動に係る事業計画—(案)—

(2016 年 10 月 1 日～2017 年 9 月 30 日)

特定非営利活動法人 市民公益活動パートナーズ

### 【2016 年度の主な方針】

これまで市民公益活動パートナーズ（以下、パートナーズ）では、特に復興・地域再生支援活動において中間支援の立場から、さまざまな財源を確保し、応援プロジェクトやプログラム開発を試みてきました。一方、被災者の声を直接聴くために、現場での応援活動も交えて取り組んでいます。

浜通りの自治体の多くは 2017 年 3 月末を目途に仮設・借上げ住宅の撤廃を予定しており、避難者自身の生活再建や帰町準備に伴う移動が本格化しており、浪江町の仮設借上げ住宅自治会等は解散を始めています。また、避難者同士で立ち上げた市民活動グループも、“次の暮らし”に向けて仲間が離散し、活動そのものも儼ならない状況です。しかし、仮設借上げ住宅自治会は一定の役目を終えた時点で解散する組織ですから、今後は復興公営住宅自治会や避難先地域の地縁組織や地元活動団体との連携へと移行を図り、新たなコミュニティ再生に寄与していかなければなりません。

そこで今年度下半期は、新たな住民を迎えた自治会等を始め、草の根的に継続したコミュニティ支援に取り組む、或いは新たな支援に取り組む市民活動団体等に対し、県内外の中間支援組織にも協力を求めて調査や取材を行いながら、新規事業の可能性を探りたいと計画しています。

パートナーズには昨年度にも増して、広い視野と臨機応変なコーディネート力を持った「つなぐ・支える」役割が求められていると捉え、これらを軸に事業を展開します。その際、各事業からの直接的な収益は得られなくても、会費・寄付の増加など間接的な支援を募り、事務局や自主事業を維持する財源の確保も図ります。

## 【2016 年度事業計画】

これらの状況から、2016 年度は 3 つの重点事項に基づいて事業を進めていくものとします。

### 重点 1. 福島県及び近隣県の NPO 法人の社会的信頼性向上のための支援活動

2016 年度上半期、「これから PJ」では公益的活動団体向けの「勉強会」を実施しますが、その一連の取組みを通じて、NPO 法人自らが事務局を再点検し、抱えた課題を解決できるようなプログラムを提案、実施します。なお下半期からは、自主事業として NPO 相談業務や出前講座等を通じて取組みます。同時に、理事会で諮りながら、相談料等の検討も進めます。

### 重点 2. “これから”の復興・地域再生支援活動に向け、市民公益活動団体へ等の調査に基づく新規事業の企画立案

これからの支援活動の在り方を探るため、NPO・市民活動団体や復興支援活動団体、地縁組織等、県内のさまざまな活動団体とその活動状況を改めて調査、取材します。

同時に、生活再建期において、仮設借上げ住宅から“次の暮らし”を未だ図れない人たち、復興公営住宅への移転や自宅再建を図った人たち双方がつながる支援を、新たな取り組みとして進めます。

### 重点 3. 若者を中心とした人材育成と活用を目指すプロジェクトの継続

2011 年度からサポートいただいた「東日本再生ユースチャレンジ・プログラム」（住友商事（株））は今年度 3 月に支援が終了となりますが、福島の若者と共に活動した復興・地域再生支援に関するプロジェクトは、今後も続けていきます。特に、当面は自主事業として、地域のコーディネーター役を担う若者の人材育成に取組みます。

また、2 ヶ年・2 回実施した事業の中で、今後、助成金・補助金を活用して継続した取り組みが出来るような PJ に関しては、都度、事業提案をします。

## 2016 年度 組織運営に関して

### 1. 組織運営面

- ①2016 年度通常総会（第 7 期）：2017 年 12 月 2 日（第 1 日曜日）を第 1 候補とします  
（第 2 候補は 12 月 9 日/第 2 日曜日）
- ②理事会（役員会）：2016 年度も定期的な開催を予定します  
（5 回程度/2016 年 11 月、2017 年 1 月、3 月、6 月、9 月）
- ③事務局
  - ・情報公開の点検と整備認定 NPO 法人申請の際、総会・理事会議事録や会計伝票、助成金・補助金交付に関する契約書・報告書等、主要な書類の整理をすることができましたが、福島事務所と仙台事務所に据え

置く書類の再点検までには至りませんでした。両事務所の書類の整備を行い、今後ルーティンワークで整えるようにします。

- ・若い世代を中心とした人材発掘と育成の継続  
学生や若い社会人の市民活動・NPO 活動への入り口として、今後もボランティア募集は継続します。人件費が確保できる場合には、アルバイトとして積極的に採用し、共に活動します。

#### ④会計業務

- ・日常的な会計業務の改善（事務局）  
昨年度決算の際、帳簿の整理等を行ったアドバイザーや実務担当者の疑問や課題を、理事（常勤、会計担当）も共有し、業務の改善を図ります。  
なお、会計マニュアルの作成は制作には至らず、2016 年度以降の試みとします。
- ・中間監査の提案  
監事に新たな協力を求め、2016 年度は毎年度 11 月に行う事業・会計報告の他に、中間監査（2016 年 10 月～2017 年 3 月の上半期）を 2017 年 5 月下旬頃に実施します。

#### ⑤業務管理

- ・全体ミーティングの開催：組織全体の情報共有を図るため、年 4 回程度の事務局ミーティングを計画しましたが、実施に至りませんでした。2016 年度の運営体制を鑑みながら、実施します。
- ・内部研修等：事務局ミーティングによって明らかになる要望や業務に対するスキル等を中心に、実施します。

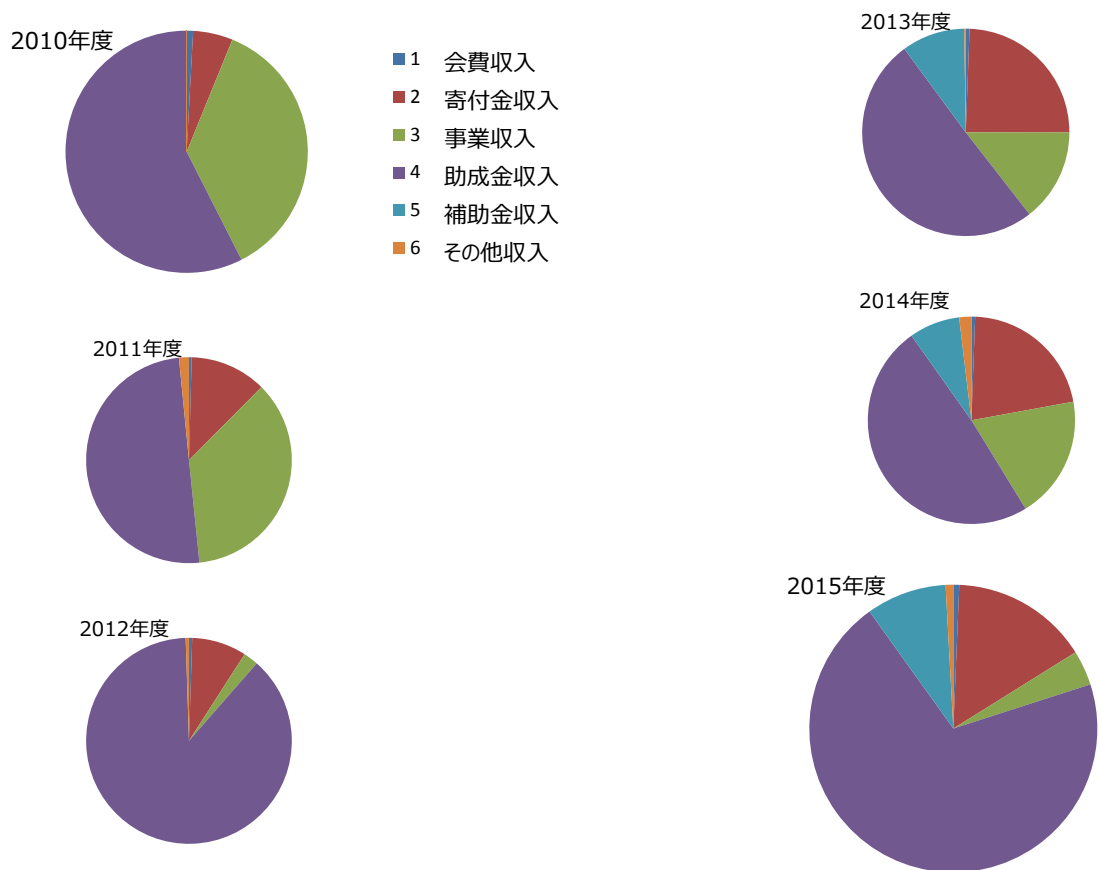
## 2. 財政面

過去 6 期分の主な財源の構成比率は以下のようになっています。

また、2016 年度下半期以降の財源確保の目途が未だ立っていませんので、出来るだけ早期に、民間助成団体或いは自治体の補助金交付事業等に事業提案を行います。

[参考データ]

	総収入（円）	会費収入	寄付金収入	事業収入	助成金収入	補助金収入	その他の収入
2010年度	2,911,771	25,000	155,000	1,062,720	1,680,000	0	51
	%	1	5	36	58	0	0
2011年度	13,170,242	56,000	1,583,500	4,731,699	6,593,292	0	205,751
	%	0	12	36	50	0	2
2012年度	13,770,312	70,000	1,183,500	323,700	12,121,895	0	71,147
	%	1	9	2	88	0	0
2013年度	11,862,434	70,000	2,897,379	1,714,821	5,983,196	1,167,778	29,260
	%	1	24	14	50	10	0
2014年度	9,474,058	55,000	2,041,561	1,811,460	4,636,052	750,000	179,985
	%	0	22	19	49	8	2
2015年度	8,305,682	55,000	1,283,190	326,024	5,820,000	750,000	71,468
	%	0	16	4	70	10	0



### ●会費・寄付

- ・会費の納入を促進させるため、会員へのサービスと交流機会を図ります。
- ・引き続き、積極的に寄付募集の活動を行います。
- ・『おたがいさま新聞ぷらす』を寄付商品としてよりアピールをするため、広報に力を入れます。

### ●自主事業

#### ・NPO 問合せ・相談業務の充実

2016年度上半期に実施している、NPO・市民活動団体向けのオープン相談会「しゃべれば会議」を、下半期は月1回定期的に継続します。同時に、より多くの団体が参加し易いように、テーマを設定するなど工夫します。

#### ・研修プログラム等の開発・実施

これまでの問合せ・相談業務を通じて習得したノウハウや、NPO 法人の新人スタッフ研修の実績等を活かし、研修プログラム提供の提供を推し進めます。

自主事業収入のアップを試みながら、財源構造の改善に努めます。

●受託事業、助成金・補助金事業等

- ・若者の復興再生・地域貢献活動を支援する事業や市民活動団体・NPO の組織力向上を応援する事業など、これまでの実績を活かし、かつ中間支援組織に相応しい事業提案に努めます。
- ・この他、当法人の事業目的に合う自治体の委託事業や補助金交付事業、民間の助成金事業等の情報を検討し、都度応募します。その際、助成終了後も自主事業として継続、発展させることが出来るような提案を心がけます。

### 3. 会員へのサービス（特典）

・ニューズレターの発行

2015 年度の理事会（7/25 第 5 回、9/30 第 6 回）にて発行を決定しましたが、制作に至っていません。メールマガジン等手段についても協議しましたが、当面の間、活字媒体による通信を半期毎の 2 回程度とし、総会終了後に第 1 号を発行します。

・交流と研修機会の提供

会員同士の交流機会が、総会及び終了後の交流会に限られており、機会づくりの要望が出たことから、2016 年度は事業における勉強会（研修会）を積極的に案内すると共に、交流機会も創ります。

### 4. 広報

・法人パンフレット改訂の取組みが遅れていますが、総会終了後の理事会に諮り、2016 年度中には第 2 版を作ります。

・寄付金募集パンフレットや事業報告書、『おたがいさま新聞ぶらす』、各事業の成果品等については、例年通り積極的に配付し、広報ツールとして積極的に活用します。

・昨年度末にリニューアルしたホームページは、定期的な更新に努めます。また、2016 年 10 月から始めた公式ツイッターは、タイムリーな発信を図ります。

### 5. その他、特記事項

研修や会議へ積極的な参加：組織マネジメントやスタッフのスキルアップに繋がる学びの場には、役員はもちろん、スタッフにも参加を勧めます。さらに、事業連携や人脈づくり、情報交換などを図るための会議や催事等については役員等が参加し、報告による共有を図ります。

## 2016年度 事業について

2016年度の事業も各々、定款に定めた(1)～(6)に関わる事業として取組みます。  
各事業名の右横や行下に、※(No.)事業の種類(一部省略)として、該当する事業を示します。

### 定款 第5条

- (1) 市民公益活動及び組織運営全般に係る相談・助言・研修等に関する事業
- (2) 市民公益活動の普及啓発に係る広報、人・財登録及び情報提供等に関する事業
- (3) 市民公益活動に係る会計基準及び評価に関する普及啓発・調査研究事業
- (4) 監査・監事業務の啓蒙事業
- (5) 前各号に係る協働の企画提案・ワークショップの企画運営・情報の収集及び発信に関する事業
- (6) その他、第3条の目的を達成するために必要な事業

### ◆自主事業

1. 市民公益活動及びNPO活動相談 ※(1)相談・助言・研修等/内容によって(2)～(6)も含まず
2. NPO組織基盤強化及びNPO活動に関する研修  
※(4)監事・監査業務の啓蒙/(1)相談・助言・研修等/(3)会計基準及び評価に対する啓蒙啓発・調査研究
3. 復興支援・生活再建支援活動「いつもの暮らしに戻ろうプロジェクト」  
※(2)広報、人・財登録及び情報提供/(6)その他

### ◆連携・協力事業

1. 「浪江のこころ」プロジェクトへの取材協力等 ※(2)広報、人・財登録及び情報提供
2. 浪江町タブレット「なみえ新聞」・健康コラムへの原稿執筆 ※(2)広報、人・財登録及び情報提供
3. (社福)福島県社会福祉協議会(全国ボラフェスふくしま、ボランティア推進委員会)  
※(1)相談・助言・研修等/(2)広報、人・財登録及び情報提供/(5)協働の企画提案等
4. 福島市市民活動サポートセンター運営協議会  
※(1)相談・助言・研修等/(2)広報、人・財登録及び情報提供/(5)協働の企画提案等

★3. 及び4. の委員としての協力は、2期目(2年度を2回)の任期が2017年3月までのため、2016年度上半期までの取組みと予想されます

◆助成金・補助金事業

2016 年度上半期は、昨年度からの継続として、以下の 3 つのプロジェクトを進めます。それぞれに課題はありますが、理事や実施メンバー、外部協力者との調整を密にし、期間中に一定の成果を上げます。

プロジェクト名	実施予定期間	実施体制	実施内容	課題
<p><b>1. 若者たちで明日の福島をつなぐプロジェクト</b> (略称：あす福PJ)</p> <p>※ (2) 広報、人・財登録及び情報提供/ (5) 協働の企画提案、WSの企画運営、情報の受発信</p>	2017年3月まで	理事 大学生チーム 外部専門家、等	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学生ボランティア・コーディネーター育成を目的とした研修 (2016年7月終了)</li> <li>● 実践活動として、3.11当時の社会的な状況とボランティア活動を調査・取材。小学校5, 6年生を対象とした『ふくしまの明日ー3.11を知る』を編集、発行。福島を記憶を記録し、次の世代に伝えること、今後の防災に活かすことを目的にする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 編集制作スケジュールの遅れ調査 (取材) 活動及び編集作業等を見直し、事務局の体制を増強。契約期間内の制作を進めること</li> <li>● 2017年度以降の若者の人材育成PJへの道筋を描くこと</li> </ul>
<p><b>2. 避難からの“次の暮らし”をつなぐ・支える応援プロジェクト</b> (略称：これからPJ)</p> <p>※ (1) 相談・助言・研修等/ (2) 広報、人・財登録及び情報提供/ (5) 協働の企画提案等</p>	2017年3月まで	理事 事業担当者 委託業務担当者 (情報収集及び取材) 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 復興公営住宅自治会や市民活動グループ等のサポート (桑折町や福島市)</li> <li>● 『おたがいさま新聞ぶらす』の継続発行と読者の増加</li> <li>● 地元の間接支援が地元や近隣の市民活動団体や地縁組織を応援出来る体制づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 新聞を活用し、復興公営住宅自治会の座談会を実施し、お付き合いのきっかけを創ること</li> <li>● 仮設借上げ住宅自治会の状況把握のため、17年1月から電話取材を行い、実態を把握すると共に、復興公営住宅自治会役員や団地のキーパーソンをご紹介いただくこと</li> <li>● 「しゃべれば会議」への参加団体が少なく、福島のNPOが抱える課題、ニーズは十分に把握できないようだが、見えてきたテーマについて順次、勉強会の企画を始めること。(その際、山形や宮城、福島の間接支援の登壇を盛り込む)</li> </ul>
<p><b>3. ふくしまは、美味しいー近くから遠くまで、もっともっと福島の良さを広げようー</b> (略称：ふくしまは、美味しいPJ)</p> <p>※ (2) 広報、人・財登録及び情報提供/ (6) その他</p>	2017年2月まで	理事 ※ 福島県立福島商業高校2年生 (4クラス) ※ 料理研究家	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 県外イベント用リーフレット『福島の高校生が考えた、福島レシピ (仮称)』の制作・発行</li> <li>● 仙台市@県外の市民イベントの開催予定が決まっていないこと</li> <li>「福島のブランドイメージ」に関するアンケート集計と分析作業</li> <li>・県内1ヶ所 (福島市 実施済)</li> <li>・県外3ヶ所 (大阪市、広島市は実施済み。仙台市未定)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● リーフレット制作を年内に行うこと (11/20にレシピ完成のためのデモンストレーションを実施)</li> <li>● 仙台市の開催に伴う、連携団体やイベント日程等が未定であること</li> </ul>